

戦争遺跡「鷓野飛行場跡」に初の修学旅行生

平和学習に県内外の17校が訪問予定

2020/09/18

太平洋戦争遺跡群が点在する鷓野飛行場跡（兵庫県加西市鷓野町）を9月16日、修学旅行生が初めて訪れた。大阪府松原市立松原第六中学校の3年生132人。戦時中の名残を留める防空壕跡、対空機銃座跡、爆弾庫跡などを巡る平和学習に取り組んだ。

一行はこの日朝、バス4台に分乗して旧姫路海軍航空隊訓練基地だった鷓野



飛行場跡に到着した。同校は「遊歩道が整備されて戦争遺跡群が徒歩圏内にあり、説明も受けられる」ことなどから訪問先に決めたという。4、5人のグループに分かれて行動し、それぞれの遺跡でボランティアガイドの説明に耳を傾けた。

[太平洋戦争の末期に日本海軍が開発した戦闘機「紫電改」の実物大模型を見学する中学生たち＝加西市鷓野町](#)

旧日本海軍の戦闘機「紫電改」の実物大模型が展示されているコンクリート製滑走路跡の備蓄倉庫前では、戦史研究家の上谷昭夫さん（81）＝兵庫県高砂市＝が「軍隊の滑走路が当時のまま残っているのは全国で鷓野だけ。この1200メートル滑走路に隣接する組立工場では紫電改が46機つくられ、試験飛行も行われた」と説明し、「ここでは皆さんとほぼ同年代の16歳ぐらいからの若者が、戦闘機に乗るための練習をした。戦争では多くの若い人が亡くなった。命の大切さを感じてほしい」と呼び掛けた。



戦時中は自力発電施設だった巨大防空壕跡のシアターでは、鶉野飛行場から飛び立った姫路海軍航空隊の特攻隊「白鷺隊」の遺書を紹介する映像を見た。

戦時中は自力発電施設だった巨大防空壕跡を整備したシアターでは、特攻隊の遺書を紹介する映像が上映された＝加西市鶉野町

見学を終えた後、女子生徒の一人は「悲惨なことがあったのを知り、今の平和が当たり前なことじゃないと分かった。ここで思ったことを周りの人たちに



伝えたい」と話していた。最後に滑走路跡わきに立つ平和祈念の碑前で平和集会を開き、学年代表が「人間の命を同じ人間が奪う戦争は起こしてはならない。私たちは言葉で解決する世界を創りたい。戦争についての学びを語り継いでいく」と誓いの言葉を述べた。

平和学習最後の集会で、戦史研究家の上谷昭夫さんの講話に耳を傾ける生徒たち。平和祈念の碑に千羽鶴をささげた＝加西市鶉野町

加西市は2019年6月から紫電改の実物大模型を公開するなど、鶉野飛行場跡の平和教育活用に向けた整備を推進中。松原第六中のほかにも11月末までに、県内外の17校が修学旅行で訪れる予定という。